

みみタロウ

日本語版 ☆ 148号 2023年7月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」

住所：大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

Tel : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : https://www.s-i-a.or.jp

Facebook : https://www.facebook.com/siabiwako



やきものの聖地で世界と交流！

今回みみタロウは、「滋賀県立陶芸の森」の学芸員、裴洙浄さんにお話を伺いました。



13年前、韓国で大学卒業後に働いていた陶磁関連のギャラリーでやきものに魅せられ、文獻資料が多い日本で日韓のやきものの比較研究をしたく来日しました。2年間日本語学校で語学を習得、大学院で5年（博士）、特別研究員（PD）として1年半研究している中、「本物を存分に触りたい」という気持ちが強くなり学芸員に応募。愛知県陶磁美術館、瀬戸市美術館の非常勤の学芸員を経て、滋賀県立陶芸の森の外国人の正規学芸員として初めて採用され、今年4年になります。コロナ禍で閉館中にはバーチャルミュージアムを企画し、そして昨年、韓国の現代陶芸を伝統の流れの中で紹介する展覧会を企画しました。



陶芸の森は中世から続くやきものの町、信楽にあり、やきものをテーマに、創造や研修、展示などの機能を持つ広大な公園です。特徴的なのは、作家が一定期間滞在しながら創作活動をするレジデンス施設があることです。30年前からこの事業に世界中の作家を受け入れてきたため、海外で信楽は「やきものの聖地」、「レジデンスの聖地」とされ、有名です。これまで55か国、約1,500人の作家が訪れ、信楽特有の土や様々な窯を用いて創作の可能性を広げました。そして作家たちの作品の一部は当館の所蔵品として、他にはないユニークなコレクションとなっています。また滞在中の作家から話を聞く機会も設けています。このような世界に関われた美術館に韓国人である私がいることで、その国際性を生かした展開ができると思うし、これからもますます活発に国際的な展示を行っていきたいです。

近年、韓国は目まぐるしく社会が変化を遂げてい

て、私も帰国時にはついていけないほどです。家庭で使われる食器も、90年代頃からは西洋食器やプラスチックのものが使われるようになり、このため窯元も大幅に縮小しています。日本では、今も家庭でやきものの食器が大半に使われているので、陶芸家にとって恵まれた環境なんですね。中国、韓国、そして日本は歴史的に交流が盛んで、やきものの世界でも相互に影響しあってきました。しかし近い国同士だけあって政治的にも敏感な関係もあり、それが悪化すると姉妹交流やイベントまで打ち切られるなど、在日の外国人にも影響が及びます。ですので「どうか政治が文化や芸術まで巻き込まないで」というのが私の強い願いです。

私自身は、来日当初こそ自分が外国人だと強く意識していましたが、今では家を探す時に「自分は外国人だった」と思い出すぐらいで、すっかり自然に暮らしています。私の場合、あえて同国人との付き合いよりドボンと日本人の中に入り、沢山おしゃべりすることでここに馴染みました。日本で暮らしていいなと感じているのは、職に関する差別が比較的少ないことです。学生時代、夜間のアルバイトでライン作業をした時、一緒にお年寄りも元気に働いていて驚きましたが、職に関して比較的オープンマインドがあることで、こうして私も一人で仕事を続けられるのだと思います。もう一つ気に入っているのが、日本にある「一人文化」のようなものです。来日前にはレストランに一人で入るなど考えられなかったのですが、ここには一人用のサービスや物がたくさんあって、とても便利。一人で好きなことを気兼ねなくできるので、とても自由を感じます。そして滋賀に住んで、まず琵琶湖があることに心が和みます。琵琶湖一周はまだですが、湖畔でくつろいだりキャンプをして楽しんでいます。

今、次の展示会に向けて準備をしているところです。（p4★参照）是非皆さん、世界に誇る陶芸の森に遊びに来てくださいね！

